

Economic Indicators

発表日: 2022 年 8 月 31 日(水)

鉱工業生産指数(2022 年 7 月)

～部材供給不足の緩和を受けて、回復が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 小池 理人 (TEL: 03-5221-4573)

(単位: %)

		鉱工業生産		出荷		在庫		在庫率		資本財(除く輸送機械)		消費財	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
21	1月	1.9	▲ 5.3	1.9	▲ 5.2	▲ 1.3	▲ 10.3	▲ 4.0	▲ 4.0	7.6	▲ 0.2	0.0	▲ 5.7
	2月	▲ 0.1	▲ 2.6	▲ 0.6	▲ 3.7	▲ 0.3	▲ 9.4	0.6	▲ 3.8	0.4	6.3	▲ 1.7	▲ 5.9
	3月	1.7	3.6	0.7	3.5	0.0	▲ 10.0	▲ 1.3	▲ 12.5	▲ 3.2	8.3	0.6	1.2
	4月	1.1	15.6	1.3	15.8	0.2	▲ 9.9	▲ 0.6	▲ 22.0	8.9	19.2	▲ 0.5	15.1
	5月	▲ 6.2	21.0	▲ 2.6	21.2	▲ 0.5	▲ 8.9	1.2	▲ 27.8	▲ 1.6	22.7	▲ 4.5	11.0
	6月	7.2	22.9	3.2	18.9	1.6	▲ 5.1	▲ 0.2	▲ 21.6	3.3	22.2	2.9	9.4
	7月	▲ 0.8	11.1	▲ 0.4	10.7	▲ 0.3	▲ 4.7	1.6	▲ 13.3	▲ 0.7	19.2	0.5	0.4
	8月	▲ 1.9	8.4	▲ 2.6	6.7	▲ 0.1	▲ 3.8	1.9	▲ 10.0	▲ 1.6	24.8	▲ 5.2	▲ 5.4
	9月	▲ 6.5	▲ 2.5	▲ 7.2	▲ 4.6	2.7	0.4	4.5	0.3	▲ 1.4	15.1	▲ 13.4	▲ 20.0
	10月	2.1	▲ 4.3	2.5	▲ 5.9	0.5	2.1	▲ 1.2	4.8	▲ 0.9	8.8	10.9	▲ 14.6
	11月	5.0	4.8	5.4	3.3	1.4	5.5	▲ 1.5	0.5	0.6	9.9	8.9	▲ 1.6
	12月	0.2	2.2	0.2	2.5	0.1	4.9	▲ 0.3	1.2	1.5	9.7	3.4	▲ 0.7
22	1月	▲ 2.4	▲ 0.8	▲ 1.5	▲ 1.3	▲ 0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲ 6.2	▲ 5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲ 1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲ 5.1	0.8	1.4	▲ 3.7
	3月	0.3	▲ 1.7	0.6	▲ 2.4	▲ 0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲ 1.5	▲ 6.6
	4月	▲ 1.5	▲ 4.9	▲ 0.3	▲ 4.6	▲ 2.3	4.1	▲ 2.8	8.4	1.9	▲ 2.5	0.7	▲ 5.8
	5月	▲ 7.5	▲ 3.1	▲ 4.1	▲ 3.1	▲ 0.9	3.8	3.1	7.9	▲ 4.2	▲ 1.9	▲ 4.6	▲ 3.4
	6月	9.2	▲ 2.8	5.0	▲ 2.9	1.9	4.2	▲ 1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲ 3.6
	7月	1.0	▲ 1.8	1.6	▲ 1.6	0.0	4.5	1.6	8.2	6.8	7.9	3.4	▲ 1.2
	8月	5.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9月	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 22年8月、9月は、製造工業生産予測調査の数値

○部材供給不足の緩和を受けて、回復が続く

経済産業省より発表された7月の鉱工業生産指数は、部材供給不足の緩和を受けて自動車等の生産が大きく回復したことにより、前月比+1.0%と、市場予測値(コンセンサス: 同▲0.5%、レンジ: 同▲1.7%~同+2.0%)を上回る結果となった。経済産業省による基調判断は「生産は一進一退で推移している」に据え置かれている。

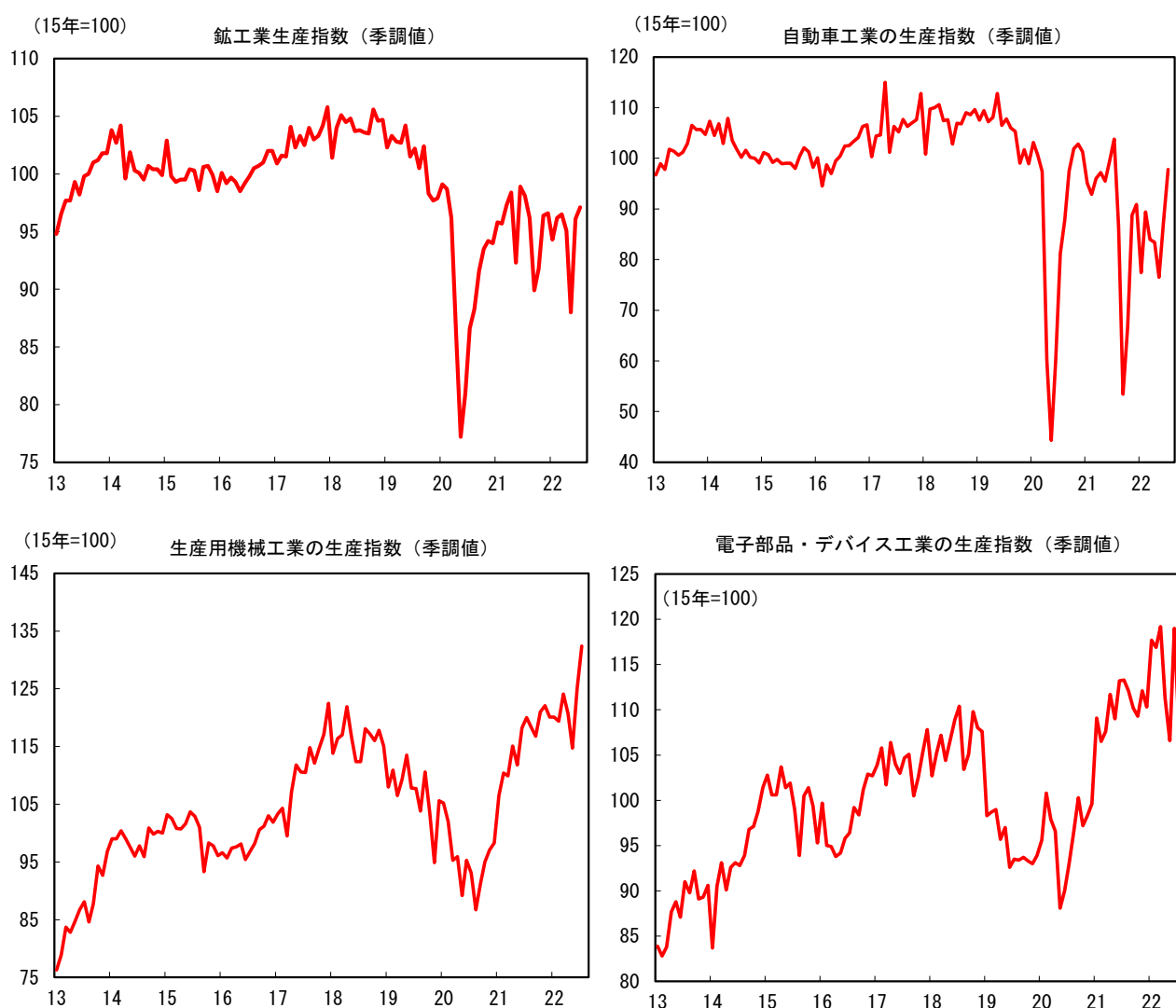
7月の生産を業種別にみると、電子部品・デバイス工業(同▲9.2%)や鉄鋼・非鉄金属工業(前月比▲1.6%)などが低下した一方で、自動車工業(同+12.0%)や汎用・業務用機械工業(同+8.6%)、生産用機械工業(同+5.9%)などが上昇した。部材供給不足が緩和される中で自動車等の生産が回復している。出荷指数についても、同+1.6%の上昇となった。自動車工業が同+10.5%となるなど、生産と同様に部材供給不足緩和の影響を受けて、出荷が上昇した。

○生産は回復が見込まれるが、依然として下振れリスクは高い

同時に公表された製造工業生産予測指数では、8月が前月比+5.5%、9月が同+0.8%となっており、予測指数の下振れバイアスを考慮した経済産業省の試算値では8月は同▲0.6%となっている。

供給制約が徐々に緩和されることにより、生産は回復することが見込まれるが、依然として下振れリスクが燦々している状況であり、回復ペースは緩やかなものに止まるだろう。リスク要因として挙げ

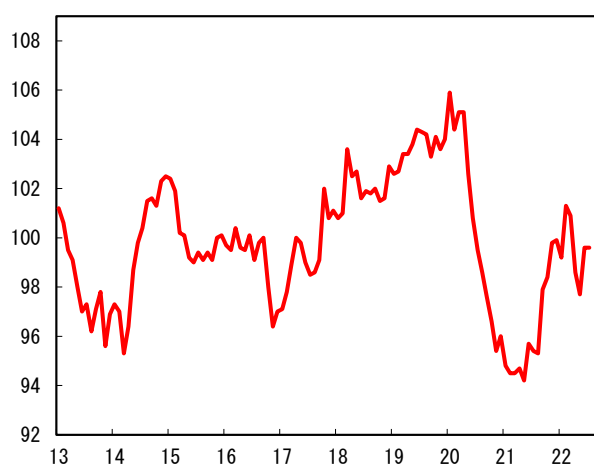
られるのが、海外景気の悪化だ。世界的な金融引き締めを背景とした景気悪化により、海外需要が減退し、生産に悪影響が及ぶことが想定される。供給制約の悪化についても注視する必要があるだろう。中国におけるゼロコロナ政策に伴い、再び供給制約が強まる可能性は否定できず、今後も生産を下押しする可能性があるだろう。また、電子部品・デバイス工業の動きも気になりである。電子部品・デバイス工業は、上述のように前月比▲9.2%と大幅に低下したが、8月に予測修正率も▲19.8%と大きく低下している。電子部品・デバイス工業の在庫は依然として高水準で推移しており、今後も生産調整により弱い動きが続くことが見込まれる。生産は回復に向かうことが想定されるが、生産を取り巻く下振れリスクは多く燻っており、依然として予断を許さない状況であると言えるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(15年=100) 鋳工業在庫指数 (季調値)



電子部品・デバイス工業の在庫指数 (季調値)



(出所) 経済産業省「鋳工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

